



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「神は人を分け隔てなさいません」

聖書(ローマ書2章11節)

牧師 河合裕志

パウロは随分と思いついたことを言う。「すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです」(2章1節)。これはパウロの同胞のユダヤ人に向かって言っている。

ユダヤ人はかねてユダヤ人以外の異邦人に対して、お前達は神を信じないで様々の悪事に手を染める罪深い人々だと裁いていた。俺達は神の選民で優秀な民族だと誇っていた。そんな彼らにパウロは水をぶっかけた。あなたも人を裁いて同じことをしているじゃないか。自分だけ棚に上げて。

これはユダヤ人のプライドを傷つけるに充分だった。彼らの怒りは煮えたぎる。パウロはただではすまされない。しかしパウロからすればこれは本当のところだから言わざるを得なかった。同胞の罪を指摘して彼らに悔い改めてほしい、ということ。

そしてパウロは言う。「神はおのおのの行いに従ってお報いになります」(2章6節)。そこにはその者が異邦人なのかユダヤ人なのか、そういう区別はないんだ。神は公平に各自の行いを注目するんだ。善を行う者には永遠の命を与える。不義を行う

者には怒りが下されるんだ。とにかく「神は人を分け隔てなさいません」、こうパウロは言い切った。実に胸がスッキリするような言い方。

パウロにとっての神は公平無私な存在ということ。この点人間とは対照的。人間は公平であることが難しい。男であるか、女であるか、どこの学校を出たか、国籍はどこか。こういうことで人を差別する、分け隔てをする。違った扱いをする。

本当はその人その人の実力こそ目を注ぐべきなんだ。その人の人柄とか意欲とかを見るべきなんだ。ところがそうならない。情実とかもからんでくるから厄介。公平な判断が人間には不得手。

この点パウロの見るところ神は民族差別は超えていた。何人であろうがおかまいなし。その人の行い次第だよ、ということ。その者は善を行う者か、それとも悪を行う者か、そこだけを見るよ、と。

これは大事な視点。この事を覚えて善を行うよう心がけたいもの。ただ、一方で私達は善人になり切れない弱さ、罪深さを持っている。これはイエスの十字架によって赦してもらわねば。そして赦された者として、イエスの助けを頂きながら善に向かう者になれば幸い。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時